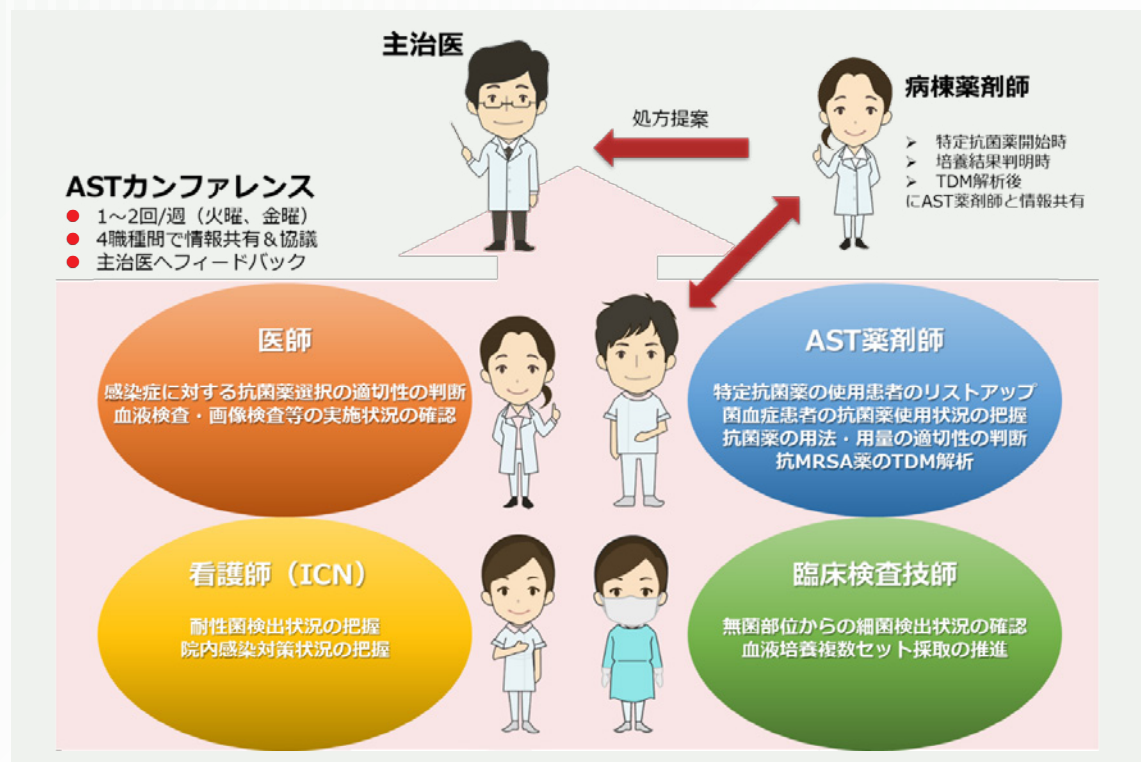


また、地域の医療機関からの抗菌薬適正使用の推進に関する相談等を受ける体制も整備しています。
抗菌薬の不適切な使用を背景とするAMRは国内のみ

ならず世界中で問題となっています。私たちASTは、今後もAMR対策のために「縁の下力持ち」として、抗菌薬の適正使用に貢献できるよう全力を尽くします。



▲図 ASTにおける各職種役割

▶診療日のご案内

	循環器内科	内分泌・糖尿病内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	呼吸器・乳腺外科	整形外科	形成外科(午後のみ)	脳神経外科	脳神経内科	皮膚科(午後のみ)	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【受付時間】

〈平日〉8:40~11:00

※1 小児科の専門外来は要予約 ※2 皮膚科休診中

※3 耳鼻いんこう科(紹介状持参の方のみ受付)

【休診日】

土曜日・日曜日・祝日

年末・年始(12月29日~1月3日) お盆(8月15日)

【面会時間】

〈平日・土曜日〉13:00~20:00 〈日曜日・祝日〉11:00~20:00

※新型コロナウイルス感染防止のため、現在病棟への立ち入りは禁止させていただきます

▶交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合

西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分

JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合

九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分

県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安とさせていただきます。

※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。



ちくし



「基本理念」

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。その基本は「人間性に立脚した医療」、心の繋がりを大切に患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

「基本方針」

1. 安全、安心な思いやりのある医療の実践
2. 大学病院として、高度先進医療の提供
3. 地域医療支援病院・地域がん診療病院として、情報発信とともに地域医療への貢献
4. 開かれた質の高い多職種協働によるチーム医療の実践
5. 患者の尊厳を尊重し、倫理観を備えた優しい心を持った医療人の育成

感染制御部

院内の感染対策と地域の医療機関との連携に注力します



感染制御部 部長・呼吸器内科 教授

石井 寛

感染制御部の設立について

新型コロナウイルス感染症の世界的流行(パンデミック)が世の中を一変させ、医療機関も未曾有の事態といえるほどの影響を受けています。当院は第二種感染症指定医療機関であり、呼吸器内科が主体となって、保健所からの診療依頼や福岡県新型コロナウイルス感染症調整本部によるCOVID-19患者の入院要請を引き受けています。2021年1月、院内クラスターが発生し、職員のみならず入院中の方々にも感染が広がりました。ようやくワクチンの接種が普及し始めたところですが、このような状況を踏まえ、2021年4月1日付けで感染制御部が設立されました。これまで医療安全管理部内に設置されていた感染対策

部門を母体とし、所属する2名の医師は呼吸器内科兼務ではありますが、メンバー全員が連日様々な場面で奔走しています。

定期的に行っている近隣施設との合同会議(筑紫地区感染対策ネットワークカンファレンス)につきましては、2021年5月に初めてオンラインで開催し、各施設と新型コロナウイルス感染対策に関する情報共有を行うことができました。

今後も院内の感染対策と地域の医療機関との連携に注力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本ニュースレターでは、私どもの日々の取り組みについて紹介いたします。

感染制御部について

感染対策担当管理者 医師（講師） 串間 尚子

感染制御部の仕事は、感染症診療と院内の感染対策です。私たちは感染症診療が得意な医師、感染管理認定看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務の5職種でチームを組み、患者さんが「安全」「安心」して過ごしていただくために環境を整えることを基本理念として、感染症の診療支援・介入と院内の感染対策に取り組んでいます。また、医療スタッフが十分な医療行為を行えるよう、スタッフの「安全」と「安心」を創造する環境整備を行って、支援することも私たちの仕事です。

院内の環境整備のほかにも、感染伝播を防ぐ手指消毒、適切な抗菌薬選択等の実践を推し進めています。新型コロナウイルスが渦巻く困難に直面し、ひとりひとりが感染制御の重要性を理解し、基本的な感染対策を自然に身につけ実行できるようになってきた実感はありますが、これを機会に身についた基

本動作がさらに根付くことを目指しています。

院内感染を防ぐためには一部の職員のみが頑張るのではなく、全ての職員が感染制御に対して高い意識を持ち続けることがとても重要ですので、啓発活動もたゆまず行っています。また、国内外に情報を求め、感染制御の手法のアップデートを怠らず、良い対策は積極的に取り入れ、洗練された対策を講じていきたいと思っています。

感染症は、いつ起こるか分からない上に、ひとたび起これば急激に拡大し、時には生死にかかわる事態を引き起こすものです。私たちは、「備えよ常に」を心に、5職種一丸となって筑紫病院の安全・安心の砦になりたいと思っています。

また、地域の医療機関とも連携して、情報共有とともに相互に感染制御の意識を高めあうことができると存じます。

感染管理認定看護師 梅原 真由美・坂田 美穂

介入と相談

8）地域連携：地域の医療機関と連携しカンファレンスや相互ラウンドを実施

ICTメンバーの役割

- **医師**：院内感染対策の指導的役割、抗菌薬の適正使用、関連会議の運営を主な役割とし、院内ラウンドやサーベイランス、コンサルテーション、情報発信、職員教育等を行っています。
- **看護師**：院内の感染症発生状況の把握と感染防止に向けた指導、薬剤耐性菌のアウトブレイク防止、職業感染防止、医療廃棄物の適正廃棄を主な役割とし、ラウンドやサーベイランス、コンサルテーション、情報発信、マニュアルの改訂、職員教育、職種間の調整等を行っています。
- **薬剤師**：抗菌薬の適正使用を主な役割とし、抗菌薬使用状況データのまとめ、TDM測定を実施し、使用状況の評価や結果のフィードバック、投与量や投与期間についてカルテ記載等を行っています。

- **臨床検査技師**：薬剤耐性菌発生状況、無菌材料からの菌検出状況、院内感染に関わる菌検出状況の把握を主な役割とし、週報での情報発信やMRSAの遺伝子解析等を行っています。

- **事務**：職業感染の防止を主な役割とし、針刺し切創血液体液曝露発生状況の確認や健康診断の実施、ワクチンプログラムに準じた抗体価測定やワクチン接種の準備等を行っています。



▲ 筑紫病院 ICT メンバー

ICTの業務について

感染制御チーム（Infection Control Team：ICT）は、院内における病原体の感染を積極的に防止し、患者さんと職員の安全と健康を守るため、組織横断的に活動する実働部隊です。

ICTは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務による多職種の構成員で編成されており、職種それぞれの専門性を発揮し、協働で感染対策に取り組んでいます。

以下に主な活動内容・メンバーの役割を紹介します。

主な活動内容

- 1）感染対策に関する教育・研修
- 2）病院職員の健康管理（職業感染対策）
- 3）感染対策の相談
- 4）感染発生の動向監視と指導：院内ラウンドを週に1回実施
- 5）医療関連感染の状況把握（サーベイランスの実施）及び感染対策の指導
- 6）感染対策マニュアルの整備
- 7）特定抗菌薬の届出制による抗菌薬適正使用への

ASTについて

薬剤師 宮崎 元康

抗菌薬適正使用支援（Antimicrobial Stewardship; AS）とは、主治医が抗菌薬を使用する際、個々の患者に対して最大限の治療効果を導くと同時に有害事象を可能な限り最小限にとどめ、最適な感染症治療を行う目的で、感染症を専門とする医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師の4職種が協働して主治医を支援することをいいます。不適切な抗菌薬の使用は薬剤耐性（Antimicrobial Resistance; AMR）を示す微生物を発生あるいは蔓延させる原因となります。ASを推進することでAMR対策に繋がり、患者の予後改善を導くと同時に、結果的に医療費削減効果も期待できます。

当院では、ASの推進のために、上記の4職種から構成される抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team; AST）を結成し活動しています。

次ページの図に示すように、それぞれの職種が役割を有しており、日々の診療や業務の中で継続的に情報収集と情報共有を行っています。週に1～2回の頻度でASTカンファレンスを開催し、AST薬剤師が主体となり症例提示を行い、4職種で協議し、協議内容について主治医へフィードバックしています。また、AST薬剤師は、特定抗菌薬（抗MRSA薬や広域スペクトルを有する抗菌薬等）開始時や培養結果判明時、TDM解析後に病棟薬剤師と情報共有し、場合によってはAST医師に相談した上で、主治医へ処方提案を行っています。その他、抗菌薬使用量や血液培養複数セット提出率、TDM実施率、各種耐性菌発生率等を定期的に検討することでAS活動の評価を行い、院内の啓蒙活動として抗菌薬の適正使用を目的とした研修会を年に2回実施しています。